

II 新たな学校づくりのアイデア例

本章では、全国各地において学校関係者や設計者により創意工夫のもとに行われている施設整備の取り組みの中から、新たな学校施設づくりのアイデアの例をご紹介します。

前半では、「新しい教育への対応」として、『生きる力』を育む3つの要素“確かな学力”、“豊かな心”、“健やかな体”と関連の深いアイデア例を、後半では、環境との共生、地域との連携など今日的課題に対応するためのアイデア例を示しています。

新しい教育への対応 確かな学力

学習指導要領においては、「確かな学力」の確立として、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能は、例えば、小学校低・中学年では、体験的な理解や繰り返し学習を重視するなど、発達の段階に応じて徹底して習得させ、学習の基礎を構築していくことを重視しています。また、思考力・判断力・表現力をはぐくむため、観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能を活用する学習活動を発達の段階に応じ充実させています。

これらの学習活動を支える空間としては、児童生徒の自主的な学習活動を支える空間や観察・実験、体験活動の充実のための空間、児童生徒の表現力を育む活動を支える空間などが考えられ、ここでは、その空間づくりのアイデア例を示しています。

確かな学力

児童生徒の自主的な学習活動を支える空間

1. クラスルームでできることを増やす 9
2. 複数のクラスでフロアをのびやかに使う 11
3. すぐに集まったり分かれたり 13
4. 教科学習の魅力を高める 15

観察・実験、体験活動の充実のための空間

5. ゆとりあるスペースで多様な体験やものづくり 17
6. いつでも本が手に取れる 19
7. ICTで学習活動が広がる 21
8. ここに行けば作品が見られる 23

児童生徒の表現力を育む活動を支える空間

9. 大階段が劇場に 25
10. 外国語にもっと親しむ 27

1 クラスルームで できることを増やす

～普通教室でもっと豊かな学習活動を～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 普通教室について、教室内の設えや学習活動に配慮した余裕のある大きさとし、ICT^{注1}を導入したり作り付け家具を工夫したりすることなどにより、多様な学習が可能となるように計画するもの。
- 学習集団の規模や机の配列の形態が変わるような場合にも対応でき、普通教室の活用の範囲が広がる。

■期待される効果

「グループ学習」や「調べ学習」 などへの対応が容易

・授業の中で、「一斉に話を聞く」「グループ別に議論する」「各自で調べ物をする」など、学習集団の規模や机の配列を変える際に容易に対応でき、集中力を切らさない。

ICTを活用した効果的・効率的 な指導が可能

・コンピュータ、プロジェクタ等のICT機器を導入することで、教育支援機能が高まり、より魅力的な教材提示も含め、効果的・効率的な指導が可能となる。

整った教室で 落ち着いて学習

・適度な教室面積と十分な収納スペースにより教室環境が整い、子どもたちが落ち着いて学習に専念できる。

注1

● ICT ●

Information Communication Technology：情報通信技術。
IT(情報技術)とほぼ同義。
出典：三省堂刊「大辞林」



写真1-1 普通教室でのグループ学習(福岡市立博多小学校)

■計画のポイント

多様な学習を可能にする面積と寸法

・教室の面積を、机や家具の大きさや配置、行われる学習活動等を勘案した余裕あるものとし、さらにその寸法や形状についても、実施したい学習形態に対応しやすいよう配慮する。

普通教室前面の計画

・効果的な板書や発表等ができるよう、黒板だけでなく、ホワイトボードや電子黒板など、様々なシステムを比較検討する。
・掲示面を確保するなど、子どもたちの作品の展示、情報伝達の場を設えることも考えられる。

ICT環境の充実

・普通教室でもコンピュータ、プロジェクタ等が利用できるよう、LAN^{注2}配線や電源を設置しておく。

☞ p.21 「7. ICTで学習活動が広がる」参照

教室内の家具の工夫

・可動式の小ステージや掲示板など教室内の家具を工夫することで多様な学習活動を展開できる。
・使っていない教材や教具等をしまっておけるよう、十分な収納スペースを確保する。

先生のためのコーナーづくり

・小学校では、職員室との機能分担に留意した上で、教卓に加え収納も備えた「先生のためのコーナー」をつくることも考えられる。
・コーナーは、子どもたちが集まりやすい形状の工夫がなされていると良い。

■補足説明

・個々の教室を閉じたスペースとして固定的に考えるのではなく、多目的スペースなどと組み合わせて検討することも考えられる。

☞ p.11 「2. 複数のクラスでフロアをのびやかに使う」参照

・学年の学級数の変化を想定した上で、学年ごとの活動内容や体格に応じて教室の寸法を変えることも検討すると良い。
・教室背面への作り付けのロッカーではなく、可動式としたり、ロッカーコーナーとして別に設けたりすることにより、教室の背面部分を掲示や二つ目の黒板のための空間として活用することができる。



写真1-2 異なる机の向きで個別に課題に取り組む(長崎県佐世保市立清水小学校)



写真1-3 普通教室でのプロジェクタを使用した授業(目黒区立目黒中央中学校)



写真1-4 低学年用普通教室の収納家具(長野県伊那市立伊那東小学校)

■効果的に利用するための注意点

・可動式のロッカー等を用いる場合は、地震時の転倒等に留意し、レイアウト後には固定するなど、安全性を確保する。

注2

● LAN ●

Local Area Network：同一敷地(同一建物)内などの総合的な情報通信ネットワーク。コンピューター-ネットワークを基本とし、多様な情報を一括して送受・処理できる。

出典：三省堂刊「大辞林」

2 複数のクラスで フロアをのびやかに使う

～多様な学びを支える教室まわり～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 同学年あるいは、低学年、中学年、高学年ごとに、普通教室＋多目的スペース（少人数指導のためのスペースを含む）などから構成されるユニットをつくるもの。
- 学年段階に応じたユニットの空間構成とすることで、総合的な学習の時間における調べ学習や習熟度に応じた学習、またチーム・ティーチング^{注3}、などを効率的に展開することができる。

■期待される効果

多様な学習集団・学習形態に対応

・普通教室と多目的スペースが連続しているため、総合的な学習の時間での調べ学習や習熟度別学習、チーム・ティーチングなど学習集団・学習形態の変更を行いやすい。

学習に対するモチベーションとなる空間

・多目的スペースに学習のための多様な教材等を用意し、教科の進行に対応した掲示・展示を行うことにより、子どもたちに学習内容に対する興味を抱かせるなど、学習に対するモチベーションとする空間となる。

子どもたちの憩いの空間づくり

・多目的スペースの一面にベンチやソファを置くことなどにより、子どもたちが自然と集まり、憩える空間を設けることができる。そこでの幅広い交流が、社会性や豊かな人間性の育成につながると考えられる。

注3

●チーム・ティーチング●

Team Teaching：複数の教師が指導計画の作成、授業の実施、教育評価などに協力してあたること。

出典：三省堂刊「大辞林」



写真2-1 低学年用の多目的スペース（福岡市立博多小学校）

■計画のポイント

学年段階に応じたユニットづくり

- ・ユニット内に、教師コーナーや教材室等を設けることにより、学習空間を整ったものに維持することが容易になる。
- ・学年段階に応じた学習活動を行いやすいよう、ユニットを構成する空間や間仕切りの在り方を学年ごとに適切なものとする。

普通教室と多目的スペースとの連続性

- ・普通教室と多目的スペースなどを連続的あるいは一体的に使う学習も想定し、またその際には、先生の視野になるべく活動全体が入るように、普通教室と多目的スペースとの間の間仕切りの在り方（仕切りなく開放的にする、可動間仕切りにより開閉可能とする、見通しの良い透明の間仕切りを設ける等）を考える。

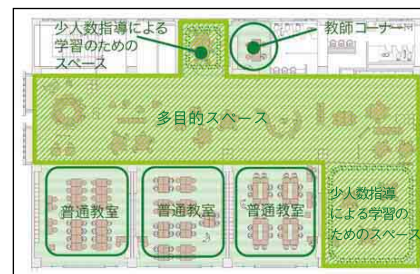


図2-1 ユニットの構成例（東京都武蔵野市立大野田小学校）

家具や備品の計画

- ・多目的スペースには、少人数指導などのための机、いすや可動式掲示板などを配置し、学習活動を豊かなものとする。

ICT^{注1}環境の充実

- ・多目的スペースの一面にコンピュータが利用できるブースを設けたり、授業の際にノート型のコンピュータを設置できるようにすることで、教室の近くで調べ学習等を行うことができる。

☞ p.21 「7. ICTで学習活動が広がる」参照

各空間での音のコントロール

- ・普通教室および少人数指導のためのスペースでは、静かな学習環境も確保できるように、周囲との区画の方法や天井、床等の材質について音の伝わり方に配慮する。

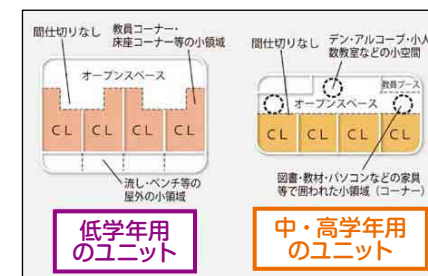


図2-2 学年段階に応じたユニットの変化例（広島県府中市立府中小学校・府中中学校）



写真2-2 教材・家具が充実した多目的スペース（愛知県東浦町立卯ノ里小学校）



写真2-3 中・高学年用の多目的スペース（埼玉県戸田市立芦原小学校）

■補足説明

- ・一時的に学級数が増加しても学年としてのまとまりを維持できるように、普通教室としても使用できるスペースをユニット内に予め設けておくこと等も考えられる。

☞ p.63 「26. 長く使い続けられる学校」参照

■効果的に利用するための注意点

- ・ユニットを利用して実施したい学習形態について、計画段階から関係者間で共通理解を図り、授業の際に同じユニットの先生同士で協力体制をとる。

確かな学力

3 すぐに集まったり 分かれたり

～少人数指導などのための小空間を身近に作る～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 少人数指導などのための小空間を、普通教室などの近くに設けるもの。
- 授業の中で、個別又は少人数での学習が必要となったときに、他の学習集団と完全に切り離さずに、かつ、少人数でのまとまりをもって、学習することができる。

■期待される効果

必要なとき、すぐに、少人数指導を実現

・教室での一斉授業の形態から、習熟度に応じた学習、グループ学習などにすぐに切り替えることができる。加えて、少人数がまとまりをもって体験的な学習をすることができる。

特別の支援を必要とする子どもたちのためのスペースにも活用

・教室の近くに音を仕切ることのできる空間があることで、普通学級に在籍している特別な支援を必要とする子どもが落ち着きを取り戻す空間としても活用することができる。



写真3-1 普通教室とは異なる雰囲気の小空間 (広島県府中市立府中小学校・府中中学校)

■計画のポイント

普通教室からの利用しやすさ

・少人数指導等に利用できる小空間を普通教室に隣接させたり、すぐに足を伸ばせる間近な場所に配置したりすることにより、授業の中でも活用しやすくなる。

居場所のできる空間

・子どもたちがその時々々の状態に応じて居場所のできる、デンのような空間とすることも考えられる。



写真3-2 廊下に向けたデン (福井県鯖江市立中河小学校)



写真3-3 特別の支援を必要とする子どもたちのための専用スペース (長崎県佐世保市立清水小学校)



写真3-4 多目的スペース内にある小空間 (神奈川県川崎市立はび野小学校)



写真3-5 多目的スペースのコーナー (埼玉県戸田市立芦原小学校)



写真3-6 普通教室と連続した小空間 (東京都武蔵野市立大野田小学校)

音のコントロール

・周囲と音を仕切ることが可能な空間を、多目的スペースの内部などに計画しておく、使い勝手が良い。

親密さを感じられるつくり

・広さに見合った低めの天井高さにしたり、ベンチ、窓・開口部を設けたり、木材を利用したたかみのある空間にしたりすることで、普通教室の環境とは異なる雰囲気を持たせることも考えられる。



図3-1 少人数指導のための小空間と普通教室との位置関係 (東京都武蔵野市立大野田小学校)

■補足説明

- ・特別の支援を必要とする子どもがいる場合には、学習への取組に集中しやすく、また落ち着きを取り戻すための場所にもなる、専用のスペースを設けることも検討する。
- ・このアイディアで期待される効果を既存校で得るためのものとしては、中学校において、余裕教室を区切り半分ずつ使って外国語の授業の少人数指導を行っている例がある。

■効果的に利用するための注意点

- ・使用予約や整理整頓のルールをつくり、必要なときに良好な状態で使えるようにしておく。

4 教科学習の魅力を高める

～使いやすい教科教室型プラン～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 教科教室型の運営方式のもと、教科教室、教科メディアスペース、小空間、教科の先生の居場所や教材室等からなる「教科センター」をつくり、あわせてクラスの場としてホームベース等を設けるもの。
- 教科担任制の中学校において、教科関連の教材や学習成果物等により学習環境を整え、教科指導の充実を図るとともに、教科の意味を実感しながら主体的に学習に取り組む姿勢を育てることができる。

■期待される効果

教科指導の充実と主体的な学習態度の育成

・教科ごとに必要な設備・環境を備えた教室を設けたり、教科の特徴や学習のねらいに応じて教材・教具・作品等を用意したりすることができ、教科指導の工夫の幅を広げ、課題を見出し解決する力の育成を図ることができる。

生活環境等の向上

・クラスの拠点となるホームベースや、校内各所に生徒の居場所となるスペースを設けることなどにより、学校全体が生活、交流、自学のスペースとなる。

教科メディアスペース



写真 4-1 外国語メディアスペース (青森県南部町立名川中学校)



写真 4-2 数学科メディアスペース (青森県南部町立名川中学校)

■計画のポイント

教科センターとしてのまとめり

・必要数の教科教室と教科のメディアスペースとなる多目的スペースを組み合わせ、小空間や先生の作業スペース、教材室等を一体感のある形でまとめる。

居場所となるホームベース

・クラスへの帰属感を高め、自由時間の居場所や持ち物の保管、情報伝達等を図る場として、ホームベースやロッカースペースを立ち寄りやすい場所に設ける。

変化のある移動空間

・教室移動に対して、廊下・階段は余裕のある広さを確保するとともに、空間に変化を持たせることにより発見や交流が生まれるようにする。

■補足説明

・学校の規模や教育指導方針等により、教科センターの構成方法には様々なタイプが想定される。例えば、小規模校では教科を組み合わせ教科センターをつくるのが考えられる。また、ホームベースの広さは当該学校のホームルーム活動の方式に即して決めることとなる。

■効果的に利用するための注意点

- ・教科の意義を伝え、学ぶ意欲を高めるため、教科の特色や単元の目標、生徒の学習成果物の掲示や展示により、常に新鮮な環境づくりに努める。
- ・ホームベースの環境づくりを生徒自身の手で行えるようにすると、クラスのまとめりが高められる。
- ・教科センターに先生の居場所を設け、中央の職員室との使い分けを明確にすることで、先生同士の協力体制や生徒とのコミュニケーションが高められる。

教科教室



写真 4-3 社会科教室 (北海道豊富町立豊富中学校)



写真 4-4 数学科教室のグラフ黒板 (青森県南部町立名川中学校)



写真 4-5 ホームベース (茨城県大洗町立南中学校)

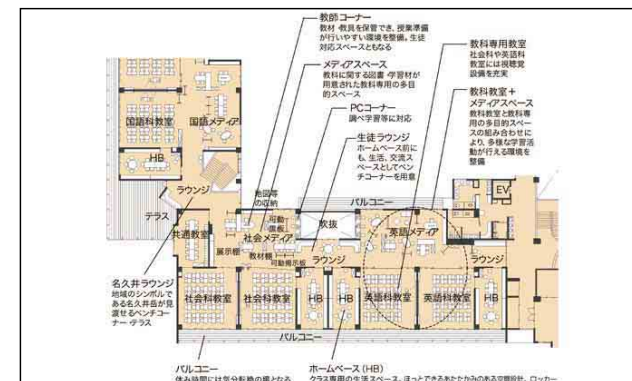


図 4-1 社会および外国語の教科センター (青森県南部町立名川中学校)

5 ゆとりあるスペースで 多様な体験やものづくり

～多目的に活用できる特別教室～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 実験、実習、創作等、子どもたち自身の作業をとまなう活動に対して、特別教室を教科別でなく汎用性を備えた内容・構成とし、また連続性をもたせて配置することで相互利用を可能にするもの。
- 各教室の利用率が上がり学校全体の活気が高まる。また、設ける教室に十分な面積を確保し教室の雰囲気が高めることにより、体験的な学習や創作活動に主体的に取り組めるようになる。

■期待される効果

より質の高い特別教室

・使用頻度の低い特別教室を減らすことで、設置する各特別教室に十分な面積を確保でき、教材等の整った環境で多様な活動形態を安全に展開できる。

学校全体の活気を高める

・小規模校等において利用率の低い教室が多いと学校全体の活気が低下し、死角となるおそれがあるのに対し、にぎわいのある安全な学校になる。



写真5-1 調理・被服教室 (千葉県立大潮中学校)

■計画のポイント

汎用性を持たせる工夫

・作業台等の家具、床仕上げ、防音性、設備等、活動ごとに必要な性能や条件をもとに、特別教室の内容や性格を再構成し、連続性をもたせて配置する。

連続的・一体的な配置

・教科ごとに特別教室を設ける場合でも、共通のスペースを設け、活動の内容に応じて一体的な利用ができるように配置や間仕切りを計画する。



図5-1 創造活動のためのスペースをまとめて配置 (青森県南部町立名川中学校)

■補足説明

- ・授業時間数をもとに必要な教室数を算定する。利用率が低い教室については特に有効である。
- ・活動スペースを兼用できるようにする一方、教科ごとの教材・教具、作品等の準備・保管スペースを十分に確保する。
- ・兼用を図る場合には、安全、衛生、汚れや塵埃等の影響について留意し、運用上の工夫とあわせて組み合わせ方を検討する。

■効果的に利用するための注意点

- ・各教科の時間数や活動内容を踏まえて、兼用の可能性や教室の内容、構成等について関係教科で検討し、共通理解を図っておくことで、円滑な施設運営ができる。



写真5-2 講義等のためのスペースから作業スペースを見る (青森県南部町立名川中学校)

確かな学力

6 いつでも本が 手に取れる

～図書室を中心とした学習環境づくり～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 図書室を、どの教室からも利用しやすい学校の中心に魅力的な空間として計画し、より一層の活用を図るもの。
- 各教科における調べ学習での活用や子どもたちの自主的・自発的な学習を促すことができ、教育効果の向上が期待できる。

■期待される効果

調べ学習などに積極的に活用

・普通教室や特別教室での授業の際に、個人やグループ単位での調べ学習に活用できる。また、これらを通じて図書室が身近になることで、子どもたちの自発的な学習や読書活動を促す。

教室と違った過ごし方ができる空間

・教室以外の、子どもたちが落ち着ける居場所となりうる。

・また、校内すべての子どもたちの利用しやすい位置とすることで、学級や学年を越えた交流が生まれる。



写真6-1 楽しく本を読んだり探したりしている様子（富山市立芝園小中学校）

■計画のポイント

日常的な利用しやすさに配慮

- ・図書室を普通教室や特別教室などから足を伸ばしやすい位置に配置する。特別教室としては、例えば理科教室と連続した計画とすることで、調べ学習への利用が容易になる。
- ・子どもたちが学習教材をより身近に利用できるようにするためには、校内に一箇所、大きな図書室を設置する計画の他に、複数の図書コーナーを校内に分散させる計画もある。
- ・各教室からの距離に配慮するだけでなく、例えば壁を少なくして開放的にすることにより、図書室をより身近な場所に感じさせる。

滞在したくなる魅力的な空間に

- ・子どもたちの気兼ねな利用や日常的な滞在を促すようにベンチ等の家具などを配置し、快適性を高める。
- ・コンピュータを置くことも、子どもたちを引きつける効果がある。
- ・様々な過ごし方ができるよう、本棚等により囲まれた場所、周囲と音を遮れる小空間、畳やカーペット敷きの座れるスペース等、図書室の中に多様なコーナーを計画する。
- ・例えば天井の高い複層分の吹き抜けとすることにより、教室とは違う過ごし方ができる印象的な空間となる。

■補足説明

- ・学校の中心がどの位置かは、学校ごとに検討する必要がある。例えば大規模校では、子どもたちの意識を図書室に近づけるよう、昇降口に近接した場所に計画することも考えられる。また、通りに面した位置に配置すれば、図書室が地域にとっても身近なものとなる。
- ・休日にも子どもが利用できることとすることも含め、地域の人たちへの開放の検討も考えられる。

p.69 「29. 学校をまちづくりの拠点に」参照

■効果的に利用するための注意点

- ・静かに本を読むだけでなく、図書室内のコーナー等を利用し、読み聞かせや発表などの活動を行っていくことも考えられる。
- ・図書室の規模や内容については、図書購入費等の財政支援及びそれを踏まえた蔵書数等と併せて検討する必要がある。
- ・図書や視聴覚教材などの図書資料を整備充実させる。
- ・図書室の機能の充実を図るため、ボランティアの協力を得ることも含め、管理、運営方法について検討を行う。



図6-1 多目的スペースの一角にある図書コーナー



写真6-2 コーナーがある図書室（福井県越前市立白山小学校）



写真6-3 子どもたちが自主的に調べ学習をしている様子（広島県府中市立府中中学校・府中中学校）

7 ICTで 学習活動が広がる

～ICT環境を整備し、十分に活用する～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- コンピュータ、デジタルテレビ、電子黒板などのICT^{注1}環境を学校に整備し、必要な場所で必要な時に十分に活用できるようにするもの。
- 各教科の授業の中での調べ学習や、観察・実験のまとめなどに、積極的に活用して、学習効果を高めることができる。



写真7-1 学習・メディアセンターでのICTを活用した学習の様子（広島県府中市立府中小学校・府中中学校）

■期待される効果

すぐに調べ学習ができる

・身近にICT^{注1}環境を確保することで、コンピュータ教室に移動することなく、調べる、まとめる、発表などの学習活動が効果的・効率的に行える。

遠隔地との交流学习

・LAN^{注2}を使った共同学習、他校の子どもたちとのオンラインでの討論や意見発表など、他者と関わりながら行う学習も可能となる。

■計画のポイント

校内どこでも利用

- ・コンピュータ教室だけではなく、理科教室や家庭教室での実物投影機の利用や体育の授業での画像の活用等、学習内容に応じてICT^{注1}環境を整備する。
- ・収納ラックを用いることで、モバイルPCの移動が容易になり、また学級間での共有がしやすくなる。
- ・無線LAN^{注2}を用いることで、机まわりでの配線の必要がなくなり、教室内のどこでもICT^{注1}環境を活用できる。

モバイルPCの保管に配慮

・モバイルPCの保管場所については、移動に便利なワゴン式のもの、未使用時に収納したまま充電できる機能のものなどがある。

■補足説明

- ・図書室と関連づけて、学校の学習・メディアセンターとして計画することも考えられる。
- ・コンピュータ教室は、校内全体のICT^{注1}環境と一体的に計画することで、センター的機能を高めることができる。
- ・調べ学習と連続して、まとめ作業や発表などの活動ができるよう、多目的スペース等と関連付けて計画する。

■効果的に利用するための注意点

- ・モバイルPCや備品の紛失を避けるため、保管場所を含めた使用上のルールをつくり、先生や子どもたちに対し徹底する。
- ・コンピュータの使用機会が増えることを踏まえ、使用時間の制限や十分な照度の確保など、健康面に配慮する。



写真7-2 コンピュータが置かれた教科メディアスペース（カリタス女子中学高等学校）（神奈川県）



写真7-3 電子黒板を活用した授業の様子（千葉県船橋市立三山東小学校）



写真7-4 コンピュータが置かれた多目的スペースのコーナー（新潟県聖籠町立聖籠中学校）



写真7-5 充電機能付きモバイルPC用ワゴン（甲南高等学校・中学校）（兵庫県）

8 ここに行けば 作品が見られる

～充実し、開放されたリソースセンター～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 美術教室や理科教室などの特別教室と一体的に、教材や子どもたちの作品などを展示する場所であるリソースセンターを子どもたちにも開放的に設けるもの。
- 子どもたちに、教科の魅力を伝えられる教材や作品を見せることで、興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すことができる。



写真8-1 学習のための資料が展示された、理科教室と連続する理科リソースセンター（茨城県大洗町立南中学校）

写真8-2 理科教室側から撮影

■期待される効果

教科への主体的な関わり

- ・各教科の教材を展示し開放することで、子どもたちが、自身が興味関心をもった分野について自ら調べ、探すなどの主体的な行動が促される。芸術関係のリソースセンターでは、伝統や芸術文化に関する理解を深めることができる。

伝統や文化に関する教育の充実

- ・伝統や文化に関する教育の充実に向け、蓄積・展示されている他の教科のリソース（芸術や文学、地理、歴史などに関する資料を含む）から教材作成等を行うことができる。

■計画のポイント

教材や作品を活かした教科の魅力を伝える空間づくり

- ・子どもたちに教科への興味を誘いかけることができるよう、教材や子どもたちの作品を、展示方法に工夫しながら陳列できるような広さや設えの空間とする。

開放的な空間

- ・リソースセンターの入口について、扉を無くす又はガラス面を多用することで、子どもたちが休憩時間に気軽に立ち入れるようになり、結果として授業中の活用も増加するようになる。



写真8-3 作品展示ができる、美術教室前のリソースセンター（福井県坂井市立丸岡南中学校）

特別教室・準備室等との位置関係

- ・授業で用いる教材等を保管するため、特別教室と隣接又は近接した場所に配置することで、教材の準備を行いやすくなる。
- ・リソースセンターを準備室と連続して配置することで、教材や作品の入れ替えを行いやすくなる。



写真8-4 創作系のリソースセンター（青森県南部町立名川中学校）

■補足説明

- ・図書室とリソースセンターを一体的に、学習・メディアセンターとして整備する手法もある。
- ・リソースセンターにおいても、ICT^{※1}環境を充実させることで、電子データも含めた充実したリソースを利用できる。

■効果的に利用するための注意点

- ・作品や資料の散逸を防ぐよう、自由に立ち入れるエリアと先生専用のエリアそれぞれの管理方法を考慮する。
- ・図書室等との役割分担が不明確とならないよう、関係者間で議論しておく。
- ・展示する教材や作品は、定期的に入れ替え、新鮮さを保つことで、子どもの興味関心が維持される。

9 大階段が劇場に

～表現の場にもなる多目的なスペース～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 階段状の空間を、発表や討論などの教育活動に活用できるよう計画するもの。
- 身近にある開放的な空間で、聴衆を前に自分の考えや作品について発表することで、説明し表現する力を育むことができる。

■期待される効果

一体感・臨場感ある発表の場

- ・発表や討論の場としての雰囲気や期待感を高め、各教科における発表や討論の活動を盛り上げることで表現する力を育むことができる。

子どもたちが憩う場所

- ・子どもたちが、腰を下ろして休憩、交流することができる場となる。



写真 9-1 階段状の空間での活動 (福井県坂井市立丸岡南中学校)

■計画のポイント

十分な広さ、幅を確保

- ・集まる人数に応じた十分な広さ、幅の階段とする必要がある。(このため全体の中での階段の面積比率は高まる。)

充実した表現活動を助ける設え

- ・表現活動を支援するため、例えば、展示用壁面、移動式黒板、自然光を調整するカーテンなどの設置が考えられる。

音のコントロール

- ・広い階段で発表する場合、そこでの音が上下階にも伝わるため、普通教室等との位置関係への配慮や、吸音の計画についての工夫が必要となる。

学校全体の中での位置

- ・校舎内での配置を工夫することで、表現の場と学校内の様々な場所との「見る・見られるの関係」ができる。



写真 9-2 階段での発表活動 (神奈川県川崎市立はるひ野小学校)

図 9-1 階段状の空間 (福井県坂井市立丸岡南中学校)

■補足説明

- ・体育館やランチスペースにおいても、ステージなどを設けることで、より多くの聴衆を対象とした発表や表現の場とすることができる。

👉 p.39 「15. 晴れの舞台を作る」参照

- ・外を歩く地域の人たちからも、中で何をしているかが分かるつくりとすることで、地域との連携に資することにもなる。

■効果的に利用するための注意点

- ・事前に、階段周囲の教室で行われる授業の内容を確認しておくことで、音が伝わるという課題に対応しやすくなる。

10 外国語にもっと親しむ

～普通教室や外国語教室などいろいろな場所で外国語教育を～

◆◆◆ アイディアの要点 ◆◆◆

- 外国語の多様な学習内容に合わせて、使いやすく外国語への親しみがわくような空間を計画するもの。
- 普通教室の利用だけでなく、外国語活動のための空間として独立した教室（外国語教室）を計画したり、あるいは音楽教室や視聴覚教室、多目的スペース等も活用することにより、効果的な学習が可能となる。

■期待される効果

効果的な外国語学習

・英会話、文法、歌や劇など、その内容に最も相応しい場所で学習することにより、学習効果を高めることができる。

外国語への親近感が醸成される

・学習内容に合った空間で外国語学習を展開することにより、外国語への親しみがわき、外国語で表現したりそれが伝わることに對するよろこびを感じることができる。



写真 10-1 外国語教室での授業（富山市立中央小学校）

注 4

●CALL●

Computer-Assisted Language Learning : コンピューターを利用した語学学習。テキスト・音声・画像を組み合わせた教材を利用し、学習者のレベル・ペースに合わせた学習が可能。

出典：三省堂刊「大辞林」

注 5

●ALT●

Assistant Language Teacher : 外国語指導助手。日本人の教員を補佐し、主に会話の指導にあたる外国人補助教員。

出典：三省堂刊「大辞林」

■計画のポイント

施設利用計画の検討

・会話ならば外国語教室や視聴覚教室、歌や劇ならば音楽教室（防音性能が必要な場合）や体育館（広い空間が必要な場合）、調べ学習ならば図書室など、学習内容に合った利用方法を検討して、関係各教室等の外国語教育支援機能を計画する。

会話や歌のための空間における配慮

・静寂を必要とする隣の室で歌を歌ったり会話をしたりするなど、隣接する空間同士で支障となることのないよう、空間の配置や遮音性に配慮する。

楽しい雰囲気空間づくり

・外国語への親しみがわくような楽しい雰囲気となるよう、教材を飾り付けたり、掲示を充実させたりするなど、空間の設えに工夫を凝らす。



写真 10-2 外国語メディアスペースの掲示（千葉県南房総市立丸山中学校）

■補足説明

- ・外国語教室として計画するほか、視聴覚教室等を、語学の学習に利用する多彩な教材・教具を備えた拠点スペースとして整備することも考えられる。
- ・CALL^{注4}教室のような、コンピュータを利用して外国語学習ができる空間を整備することも考えられる。
- ・「有名な歴史的人物とその一言」や「海外の映画コーナー」「最新音楽ヒットチャート」「海外スポーツの試合結果」など、子どもたちの興味を惹きつけるコーナーを校内さまざまな場所に設けられるようにすることも考えられる。
- ・外国語教室などに外国語の先生やALT^{注5}の拠点を設け、「そこに行けば外国語で会話できる」というような工夫も考えられる。



写真 10-3 外国語メディアスペースでの学習（茨城県大洗町立南中学校）



写真 10-4 外国語教室での学習（茨城県大洗町立南中学校）



写真 10-5 外国語メディアスペースでのコミュニケーション授業（港区立六本木中学校）

■効果的に利用するための注意点

・音が発生することが多いので、カリキュラム作成時にも隣接する室同士で支障とならないよう配慮することが必要である。